

一、次の文章 **A** と **B** を読んであとの間に答えなさい。

A

本文省略

（桐光学園ちくまプリマ―新書編集部 『何のために「学ぶ」のか』所収 小林康夫 『学ぶことの根拠』の文章による）

B 次の会話は、**A** の本文を読んだ高校生二人の会話である。

松下 みんなこういう経験あるよね。本文中に何回も出てくる「ズレ」っていうワードが筆者の言いたいことを理解するためのポイントのような気がするんだけど、どう思う？

嶋崎 そうだね。それが理解するためのポイントだと思う。だけど、「ズレ」って何のことを指しているのかな？

松下 「ズレ」＝「不満」だと思ったよ。鳥が空を飛んでいるのを見て、自分も鳥みたいに空を飛びたいなあと思ったりするけれど、人間だし、どうすることもできない。それを筆者は宿命的なズレと表現したのかな？

嶋崎 なるほどね。でも不満っていうのは、自分の中に「もっとこうしたい」とか、「もっとこうだったらいいのに」っていう目標とか願望があるから出てくるものじゃないのかな？

松下 ということは、筆者がここで言いたい「ズレ」というのは、ただの「不満」のことを指しているんじゃないかな？
ズレということなんだね。 I () の

松下 自分が感じる () I () のギャップを無くそうとする努力が、本文中の「二重の学び」に繋がっていくんだね。

問一 傍線の部分㉔㉕のカタカナを漢字に直して書きなさい。

問二 傍線の部分Aの品詞を漢字で書きなさい。

問三 傍線の部分Bの熟語と同じ構成のものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 未来 イ 勤勉 ウ 柔軟 エ 好奇

問四 傍線の部分①とありますが、その理由を本文中の言葉を用いて四十五字以内で説明しなさい。

問五 二重傍線の漢字「毎」について、次の矢印で示した太い部分は何画目に書きますか。漢数字で答えなさい。

一 毎

問六 傍線の部分②の意味として最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分の置かれた状況に満足すること。 イ 必要なものを自分で間に合わせること。

ウ 他からの支配や助力を受けずに存在すること。 エ 支えるものがなくそのものだけで立っていること。

問七 傍線の部分③とありますが、それは何か。本文中の言葉を用いて三十字以内で答えなさい。

問八 [B]の文章について、空欄に入る最も適当な語句を[A]の文章も参考にしながら次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 欲望と欲求 イ 理想と現実 ウ 夢と希望 エ 目標と計画

問九 傍線の部分④について筆者はなぜそれが必要だと考えていますか。本文中の言葉を用いて五十字以内で説明しなさい。

二、次の文章は瀬尾まいこの小説『あと少し、もう少し』の一節である。駅伝大会に向けて選抜されたメンバーがこれまで苦楽を共にし、練習に励んできた。大会を前日に控えた壮行会で、メンバーの一員であり、普段は生徒から怖がられている不良の大田がいきなりキレ出した。次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文省略

- 問一 傍線の部分㊸㊹の読みをひらがなで書きなさい。
- 問二 傍線の部分㊺とあるが、このときの俺の気持ちを五十字以内で説明しなさい。
- 問三 傍線の部分㊻の文節数を漢数字で答えなさい。
- 問四 (1)と(2)に入る体の名称として適当なものを、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。
- ア 鼻 イ 首 ウ 腹 エ 膝 オ へそ
- 問五 傍線の部分㊼とありますが、それはなぜですか。二十五字以内で説明しなさい。
- 問六 傍線の部分㊽とありますが、それはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。
- 問七 この文章の表現の特徴として最も適当なものを、次のア～エから一つ選んで、記号で答えなさい。
- ア 長い会話を多用することにより、主人公の心情を繊細に描き出している。
- イ 擬音語や擬態語を多用することで、生き生きとした情景を描き出している。
- ウ 短い文で心情や行動を描写することで、リズム感と臨場感を描き出している。
- エ 比喩法を巧みに使うことで、大田と俺の性格の不一致を描き出している。

三、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

職しきに②おはしますころ、八月十余日よひの月あかき夜、右近内侍うこんのななしに琵琶⑥ひかせて、端近くおはします。これかれ物言ひ、笑わらひなどするに、廂ひさしの柱に寄りかかりて物も言はで④候へば、「など、①かう音もせぬ。物言へ。②さうぞうしきに」と仰おほせらるれば、ただ秋の月の心を見はべるなりと申せば、「③さも言ひつべし」と④仰せらる。

（新編日本古典文学全集『枕草子』（小学館）の文章による）

【注】職におはします…中宮様がお部屋にいらっしゃる

廂の柱…縁側（部屋と庭の間にある廊下）の柱

候へば…お仕えていると

など…どうして

仰せらるれば…おっしゃるので

見はべるなり…眺めています

- 問一 二重傍線の部分を現代仮名遣いに直し、ひらがなで書きなさい。
- 問二 傍線の部分㉔㉕で主語の違うものを選び、記号で答えなさい。
- 問三 傍線の部分①とありますが、誰のどのような様子について言っているのか三十字以内で答えなさい。
- 問四 傍線の部分②とありますが、言葉の意味として適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア うるさい イ さみしい ウ つらい エ うつくしい
- 問五 本文中に「 」がついていない会話文を抜き出さなさい。
- 問六 傍線の部分③は「まさにそう言うのがびったり」という意味であるが、中宮が作者にこのように言った理由を四十字以内で説明しなさい。
- 問七 「枕草子」と同時代に書かれた作品として適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。
- ア 平家物語 イ 竹取物語 ウ おくのほそ道 エ 徒然草